

# 問 置き去りにされた 青少年センター

答 安全性確保のため今年度中に移転



光風会 恵利 いつ 議員

**議員** 耐震性が非常に低い旧中央公民館内に「高校生会」や「青少年センター」が未だ残っている。以前から対策の必要性を訴えてきたが進展が見えない。

**教育次長** 移転先として他施設の利用状況調査や移転費用など総合的に判断し対応策を検討中。職員・利用者には安全指導を行っている。

**議員** 関係者の安全性確保の心構えは大切。しかし、まだ大丈夫だろうという安易な心理が働いていないか。命に係わる耐震問題について、責任者である教育長の考えは。  
**教育長** 安全を最優先に、年度内に移転する。



青少年センターの危険な出入口

**問** 村の今後の財政見通しは  
**答** 平成29年度から歳入不足の見込み

**議員** 税収減となっても多様化する住民ニーズ(要求)の質を落とすことなく行政運営、改革を進めるには、NPO(市民活動団体)などの協力を得ることが必要と考える。

**村長** それぞれに活動してきた市民団体はじめ多様な機関が、連携してまちづくりに参加できるよう協議会制度を進めていきたい。

# 問 介護施設の整備予定は

答 現時点で計画はない



無会派 新垣 麻依子 議員

**議員** 「施設から地域・在宅へ」との指針がでていますが、自宅と介護施設を一人ひとりにあつた形で活用することで、その方らしい生活が送れる。在宅介護に対する支援の充実と並行して介護施設の整備も重要と考える。

**福祉部長** 平成28年4月現在で108名。そのうち、即時入所希望者が29名、他79名は必要時や1年以内の申込み希望者である。

**議員** 2025年の介護認定者数は現在の1.5倍との予測が出ていますが、介護施設が整備されていることで選択肢が増え、介護難民になるリスクを回避できる。今後の介護施設の充実についての考え方を伺う。

**福祉部長** 第6期高齢者福祉・介護保険事業では、特別養護老人ホームの整備計画はない。しかし、支援や介護が必要になった場合でも、自宅や住み慣れた地域の施設で安心して暮らせるよう、介護施設の有無も含め介護サービスのあり方を検討していく。



介護施設の整備が望まれる